第3章

撮影する

基本的な撮影のしかた

撮影操作の流れと、基本的な撮影方法について説明します。

操作の流れ

基本的な撮影方法は、次のような流れになります。

電源を入れる

電源をオンにします。→ P.24

撮影モードを選択する

撮影モード（静止画・音声・文字・連写・動画）を選択します。ここでは、（静止画）で撮影します。→ P.49

メディアを選択する

CF カード（CF CARD）、PC カード（PC CARD）、内蔵メモリー（IN）から記録先を選択します。→ P.50

フォルダーを選択する

メディア内のどのフォルダーに記録するかを選択します。→ P.51

画質モードを選択する

９種類（2048/F N E・1024/F N E・640/F N E）の画質モードから選択します。→ P.52

被写体の位置を確認する

ファインダーまたは液晶モニターを見て被写体の位置を確認します。→ P.53

被写体の大きさを決める

ズームレバーを操作して、被写体の大きさを決めます。→ P.54

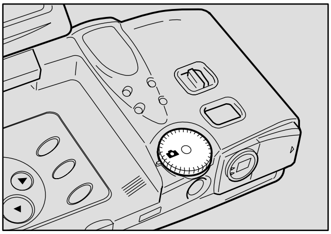
撮影する

シャッターボタンを押して撮影します。→ P.55

撮影モードを選択する

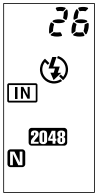
このカメラには、5種類（・・・・）の撮影モードがあります。用途にあわせて撮影モードを切り替えてお使いください。
ここでは、（静止画）で撮影します。

❶ モードダイヤルを［ ］に合わせます。



参照 ・P.25「モードダイヤルの使い方」

液晶パネルや液晶モニターに記録情報が表示されます。



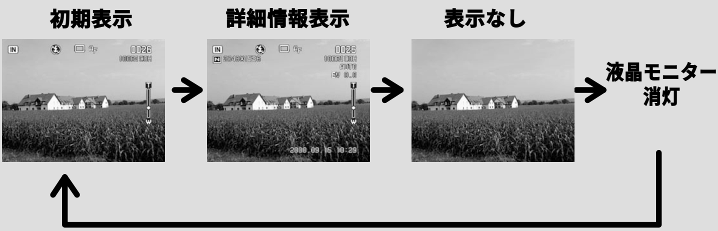
●液晶モニターの表示の切り替え
液晶モニターの画面表示は、DISPLAYキーで切り替えます。DISPLAYキーを押すごとに、「初期表示→詳細情報表示→表示なし→液晶モニター消灯」に切り替わります。→P.49「画面表示について（撮影モード）」



コラム

画面表示について（撮影モード）
DISPLAYキーを押すごとに、記録モード、画質モード、記録残枚数など、撮影時の情報表示を切り替えることができます。

●静止画モードのとき



＊音声モードや動画モードの場合、初期表示や詳細情報表示時に 、 、撮影可能時間が表示されます。

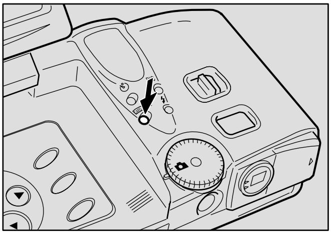
メディアを選択する

撮影したファイルを記録するメディアを選択します。

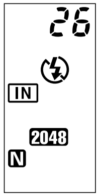
液晶パネル	液晶モニター	記　録　先
CF CARD	CF CARD	CFカードに記録します。
PC CARD	PC CARD	PCカードに記録します。
IN	IN	内蔵メモリーに記録します。

❶ **CARD/INキーを押して、記録先（CFカード・PCカード・内蔵メモリー）を選びます。**

キーを押すごとに記録先が切り替わります。



選択した記録先が表示されます。



補足 ・電源を入れたとき、どのメディアに記録するかを設定しておくことができます。→P.116「カメラの設定内容を記憶する」



フォルダーを選択する

撮影したファイルを、メディア内のどのフォルダーに保存するかを選択します。

❶ **MENU キーを押します。**

❷ **［フォルダ選択］を選びます。**
フォルダー選択メニューが表示されます。



❸ **保存先のフォルダーを選んだ後、［OK］を選びます。**
撮影設定メニューに戻ります。



❹ **［終了］を選びます。**

選択したフォルダーが液晶モニターに表示されます。



補足 ・フォルダーを新規に作成したり、不要なフォルダーを削除することができます。→ P.121「フォルダーを追加 / 削除する」
・1つのフォルダーに最大 9999 枚まで記録できます。

画質モードを選択する

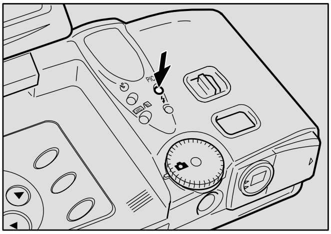
このカメラには、9種類の画質モードがあります。用途にあわせて切り替えてお使いください。

液晶パネル	液晶モニター
2048 F N E	2048×1536 F、2048×1536 N、2048×1536 E
1024 F N E	1024×768 F、1024×768 N、1024×768 E
640 F N E	640×480 F、640×480 N、640×480 E

＊画質モードを切り替えると記録枚数が変わります。
＊初期設定は2048 Nです。

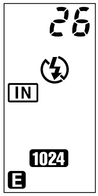
❶ PICキーを押して画質モードを選びます。

キーを押すごとに画質モードが切り替わります。



補足 ・データを非圧縮で記録するモードもあります。→P.75「非圧縮モードで撮影する」

選択した画質モードが表示されます。
画質モードが設定されると、電源をオフにしても設定されたモードが保持されます。





画質モード表示
DISPLAYキーを押したとき
（詳細情報表示→P.49）

●データの目安

画質（圧縮率） / サイズ（画素数）	F ファイン	N ノーマル	E エコノミー
2048 2048×1536	約1.12MB/画面	約568KB/画面	約280KB/画面
1024 1024×768	約 376KB/画面	約184KB/画面	約 88KB/画面
640 640×480	約 152KB/画面	約 72KB/画面	約 40KB/画面

補足
・画素数は2048×1536、1024×768、640×480です。本書および本製品では、画素数を2048・1024・640と表記しています。
・画質モード別の記録可能枚数については、「記録枚数について（P.140）」をご覧ください。

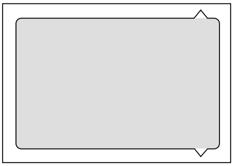
被写体の位置を確認する

ファインダーや液晶モニターを見ながら被写体の位置を確認します。

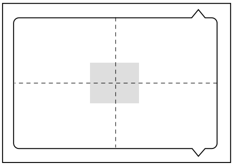
■ファインダーの見かた

ファインダーをのぞいて被写体をとらえます。

●撮影範囲枠
撮影したいものをファインダーの中におさめてください。



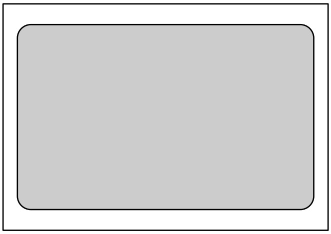
●オートフォーカス範囲
ピント合わせが行われる範囲です。
ファインダーの中央部にあり、おおよそ図のような範囲です。



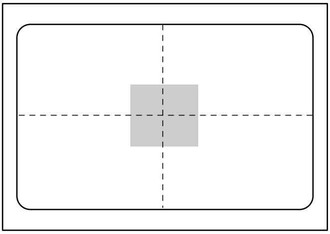
■液晶モニターの見かた

液晶モニターを見ながら被写体をとらえます。

●撮影範囲枠
撮影したいものを液晶モニターの中におさめてください。



●オートフォーカス範囲
ピント合わせが行われる範囲です。
液晶モニターの中央部にあり、おおよそ図のような範囲です。



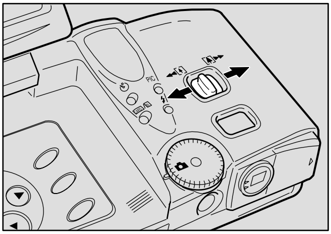
補足　・説明のためファインダーや液晶モニター内を点線とアミかけで表現しています。実際には、点線やアミかけの表示はありません。

被写体の大きさを決める（ズーム）

ズームレバーを操作すると、撮る人は被写体までの距離を変えずに被写体の大きさを変えることができます（35mm カメラ換算で 35 ～ 105mm）。

❶ ズームレバーを[T]側、または[W]側に押します。

[T]側に押すと被写体が大きくなり（望遠：TELE）、[W]側に押すと被写体が小さくなります（広角：WIDE）。



液晶モニターにズームバーが表示されます。被写体の大きさを調節してください。



■デジタルズーム機能について

撮影モードが（静止画）で画質モードが 640 の場合、最も望遠側（TELE 端）またはマクロモード（表示）のとき、さらにズームレバーを[T]側に押し続けると、デジタルズームが働いて1.3 倍、1.6 倍、3.2 倍に拡大して撮影できます。
デジタルズームを解除するときは、[W]側にズームレバーを戻します。



倍率表示

補足
- デジタルズームは、画質モードが 640 のときに使用できます。次の場合は使用できません。
  撮影モードが（音声）、（文字）、（連写）、（動画）のとき
  画質モードが非圧縮モード（NC）のとき
- デジタルズーム撮影では、液晶モニターで構図を決めて撮影してください。

撮影する（静止画モード）

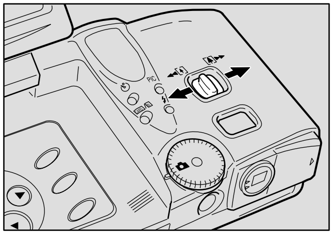
ここでは、静止画モードの撮影方法を説明します。カメラが動かないように正しく構えてください。

❶ 撮影したいものにカメラを向けます。



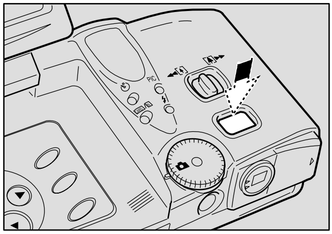
補足
- 被写体までの距離が約24cmより近いときは、マクロ撮影してください。→P.69「至近距離で撮影する（マクロ撮影）」

❷ ズームレバーを操作して、被写体の大きさを決めます。

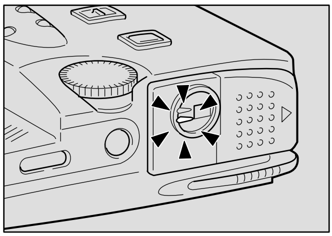


参照
- P.53「被写体の位置を確認する」
- P.54「被写体の大きさを決める（ズーム）」

❸ 指の腹でシャッターボタンを軽く押します。



シャッターボタンは2段階になっています。軽く押すと（半押し状態）、オートフォーカスが作動し、ピント合わせが行われます。手ブレがおきないようしっかりと固定してください。

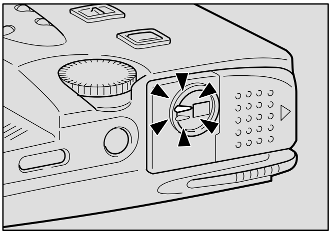


被写体にピントが合うとオートフォーカスランプ（緑）が点灯し、ピント、露出、ホワイトバランスが固定されます。

補足
- オートフォーカスランプが点滅したときはピントが合いません。フォーカスロックで撮影してください。→P.57「フォーカスロック撮影」
- 「スローシャッター」と表示されたときは、手ブレすることが多いので、フラッシュ発光することをお勧めします。→P.62「フラッシュモードを変更する」

●**フラッシュランプ**

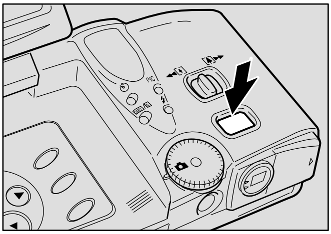
フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを軽く押したときにフラッシュランプ（赤）が点灯します。



補足 ・フラッシュ充電中はフラッシュランプが点滅し、液晶モニターの表示が消えます。このときは撮影できません。

❹ そのまま指を離さずに、シャッターボタンを静かに押しきります。

「ピッ」というブザー音が鳴り、撮影画像が表示され、記録されます。



補足 ・「ピッ」というブザー音が鳴る前にカメラを動かすと、手ブレすることがあります。
・音声を付けて撮影できます。→P.61「音声付き静止画/文字を撮影する」

記録を中止するとき

シャッターボタンを押し切ると撮影され、撮影画像が液晶モニターに表示されます。このとき、CANCELキーを押し、確認のメッセージが表示されたらシャッターボタンを押します。

撮影画像の表示時間は、任意に設定できます。→P.120「画像確認時間を変更する」



重要

・記録中は、電池ぶたやEJECTレバーカバーを開けたり、ACアダプターを取り外さないでください。
・撮影の記録中は、オートフォーカスランプやフラッシュランプが点滅します。記録が終了するまで、モードダイヤルを回したり、電源を切ったりしないでください。
なお、撮影画像の記録中は、CARD/INキーの切り替えや、MENUキーを押してメニュー画面を表示することはできません。

補足
・カメラの電源がオンのとき、設定された時間内にカメラの操作（ボタンやキーの操作）をしないと、オートパワーオフが働きます。撮影するまでに時間がかかる場合は、オートパワーオフが働かないように設定してください。→ P.117「オートパワーオフの設定を変更する」
・カメラを長時間使用するときは、予備のバッテリーまたは AC アダプター（別売り）を用意してください。

■ピントの合いにくい被写体

次のような被写体は、ピントが合わせられないことがあります。
・コントラストのないもの（空、白壁、自動車のボンネットなど）
・横線だけで、凹凸もないもの
・動きの速いもの
・低輝度（暗いところ）のもの
・強い逆光および反射光があるもの
・蛍光灯などのちらつきのあるもの

このような被写体を撮影するときは、写したい被写体と同じ距離にある違う被写体にピントを固定してから撮影してください。→P.57「フォーカスロック撮影」、P.70「マニュアルフォーカスで撮影する」

コラム

フォーカスロック撮影

通常は、ファインダーや液晶モニターのオートフォーカス範囲に見える被写体にピントが合います。ピントを合わせたい被写体がこの条件に合わない場合、その被写体にはピントが合わずボケてしまうことがあります。このようなときは、フォーカスロックで撮影します。

1. ピントを合わせたい被写体にオートフォーカス範囲を合わせます。



2. シャッターボタンを軽く押し、緑色のオートフォーカスランプが点灯したら、指をそのままの位置で止めます。
この時点でピント、露出、ホワイトバランスが固定されます。

3. 指を止めたままカメラを動かして構図を決め、シャッターボタンを押しきります。



いろいろな機能を使って撮影する

ここでは、いろいろな撮影機能について説明します。撮影モードによって利用できる機能が異なります。下表を参考にしてください。

撮影モード／撮影機能		静止画	音声	文字	連写	動画
フォルダ選択	P.51	○	○	○	○	○
音声付き撮影	P.61	○	×	○	×	×
フォーカス	P.70	○	×	○	○	○
日付入れ撮影	P.71	○	×	○	○	×
フラッシュ光量	P.63	○	×	○	×	×
ISO感度設定	P.72	○	×	○	○	×
オートブラケット	P.73	○	×	×	×	×
赤目モード	P.74	○	×	×	×	×
非圧縮	P.75	○	×	×	×	×
モノトーンモード	P.76	○	×	×	○	○
インターバル	P.77	○	×	○	×	×
ソフトモード	P.78	○	×	×	○	×
長時間露光	P.79	○	×	×	×	×
画像スタンプ	P.80	○	×	×	×	×
スキャナー濃淡設定	P.81	×	×	○	×	×

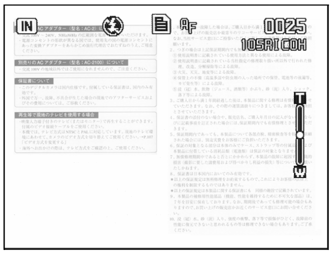
文字を撮影する（文字モード）

文字を記録します。文字などの記録に適した処理を行い、読みやすいように黒と白の２つの値だけで記録します（通常の1/3以下のデータ量で記録できます）。

❶ モードダイヤルを［ ］に合わせます。

❷ シャッターボタンを押して撮影します。

撮影画像が表示され、記録されます。



補足
- 撮影画像が液晶モニターに表示されているとき、CANCELキーを押すと記録を中止できます。→P.55「撮影する（静止画モード）」
- 音声付きで撮影できます。→P.61「音声付き静止画 / 文字を撮影する」
- 撮影時の濃淡を任意に変更できます。→P.81「文字モード撮影時の濃淡を変更する」

音声を記録する（音声モード）

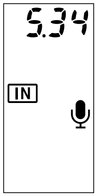
音声を記録します。記録先の残り容量に応じて、録音できる時間が表示されます。

重要

・マイクは、カメラ前面にあります。最適な状況で録音できるように、カメラの向きを調整してください。
・携帯電話を使用する場合は、雑音防止のため30cm以上離してください。

❶ モードダイヤルを［🎙］に合わせます。

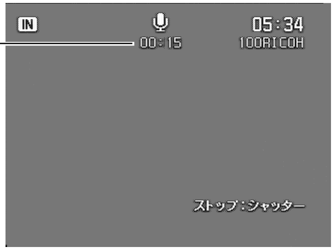
液晶モニターや液晶パネルに、録音可能な時間が表示されます。



❷ シャッターボタンを押して録音します。

録音が開始されます。録音中は🎙が点滅し、録音時間が表示されます。
再度シャッターボタンを押すと、録音を中止できます。

録音時間



補足

・録音/録音可能時間が100分を越える場合、液晶モニターと液晶パネルには、秒の１桁目は表示されません。

連続して撮影する（連写モード）

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。シャッターチャンスを逃がすことなく撮影したいときに便利です。

❶ モードダイヤルを［⧉］に合わせます。



❷ シャッターボタンを押して撮影します。

シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。
シャッターボタンから指を離すと連続撮影は停止します。

補足
・連写モードでは、フラッシュは発光しません。
・シャッターボタンを押したときの状態で、フォーカスや露出、ホワイトバランスが固定されます。
・ファイル名がRIMG9999になった場合は、連写モードでは撮影できません。記録先のフォルダーを変更してから撮影してください。

●連続撮影できる最大枚数

画質モードによって、連続撮影できる最大枚数は次のようになります。

画質（圧縮率）／サイズ（画素数）	F ファイン	N ノーマル	E エコノミー
2048　2048×1536	約 5枚	約 12枚	約 24枚
1024　1024×768	約 17枚	約 36枚	約 70枚
640　640×480	約 46枚	約 89枚	約164枚

＊１回に連続して撮影できる最大枚数です。続けて撮影できる枚数は、メディア内の容量によって変わります。

動画を撮影する（動画モード）

動画を撮影します。記録先の残り容量に応じて、撮影できる時間が表示され、音声も同時に記録されます。

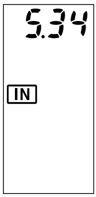
重要
・マイクは、カメラ前面にあります。
・携帯電話を使用する場合は、雑音防止のため30cm以上離してください。

❶ モードダイヤルを［動画］に合わせます。

液晶モニターや液晶パネルに、撮影可能な時間が表示されます。

❷ シャッターボタンを押して撮影します。

撮影が開始されます。



再度シャッターボタンを押すと、撮影を終了します。

記録時間



補足
・撮影中は、ズームは作動しません。
・動画モードでは、フラッシュは発光しません。
・シャッターボタンを軽く押したときの状態で、フォーカスや露出、ホワイトバランスが固定されます。

音声付き静止画 / 文字を撮影する

静止画または文字と音声を約10秒記録します。撮影状況やコメントを添えるときに利用します。

重要
・マイクは、カメラ前面にあります。最適な状況で録音できるように、カメラの向きを調整してください。
・携帯電話を使用する場合は、雑音防止のため30cm以上離してください。

❶ モードダイヤルを［📷］または［文字］に合わせ、MENUキーを押します。

❷［音声付き撮影］を選びます。



❸［ON］を選んだ後、［OK］を選びます。



❹［終了］を選んでメニュー画面を終了します。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。
撮影画像が表示されたあと、音声が約10秒記録されます。音声記録中は🎤が点滅します。



補足 ・シャッターボタンを軽く押したときの状態で、フォーカスや露出、ホワイトバランスが固定されます。
・（静止画）で非圧縮モード（NC）のとき、または（文字）のときは、撮影後に音声の記録を開始します。このとき音声記録の表示は、液晶パネルのの点滅で確認してください。

フラッシュモードを変更する

このカメラでは、４種類のフラッシュモードがあります。撮影状況に合わせてモードを切り替えてお使いください。

表示	モード名	内　容
	発光禁止	暗いところでもフラッシュは発光しません。フラッシュ撮影が禁止されているときや、室内の照明を利用して撮影するときに使用します。
A	**オート**	暗い場所や逆光のときに、自動的にフラッシュを発光します。
点灯	**強制発光**	逆光や強い光の下で人物を撮影すると、顔に強い影ができることがあります。このような影をやわらげたいときに使用します。明るさに関係なく、常にフラッシュが発光します。
点滅	**スローシンクロ**	フラッシュを発光して撮影する際、被写体にフラッシュの光があたり、背景も遅いシャッタースピードで撮影できます。 フラッシュを発光させたときに背景だけが暗くなるのを軽減できるので、室内パーティーなど、背景の雰囲気を活かして被写体をきれいに撮影したいときに使用します。

＊初期設定は、（発光禁止）です。

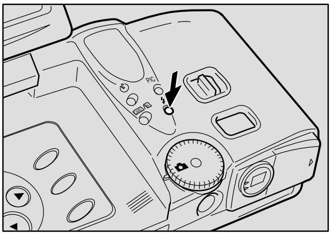
フラッシュの光が届く距離

フラッシュを発光させて撮影する場合、撮影距離は約0.6～2.5mです。被写体にフラッシュの光が届かないと、被写体が暗く撮影されます。

❶ モードダイヤルを［］または［］に合わせます。

❷ キーを押して、フラッシュモード（・A・点灯・点滅）を選びます。

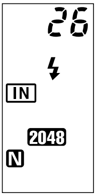
キーを押すごとにフラッシュモードが切り替わります。



選択したフラッシュモードが表示されます。オートモードの場合は、液晶モニターにのみAが表示され、液晶パネルには表示されません。

❸ **シャッターボタンを押して撮影します。**

フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを軽く押したときにフラッシュランプ(赤)が点灯します。
フラッシュ充電中はフラッシュランプが点滅し、液晶モニターの表示が消えます。このときは撮影できません。





重要

・近い被写体(約0.6m以下)をフラッシュ撮影すると、フラッシュの光が赤く写ることがあります。また、露出オーバーになるため、被写体が白っぽく撮影されることがあります。このようなときは、発光禁止モードで撮影してください。
・暗いところでは自動的にシャッタースピードが遅くなります。カメラブレが起きないようにしっかり構えるか、三脚を使用して撮影してください。特に望遠側([♠])では、カメラブレにご注意ください。

補足

・次の場合、フラッシュは発光しません。
撮影モードが(音声)、(連写)、(動画)のとき
ホワイトバランスが(屋外)、(曇天)、(白熱灯)、(蛍光灯)のとき
マクロモード()のとき
オートブラケット撮影時
・フラッシュモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.116「カメラの設定内容を記憶する」
・フラッシュを利用して撮影するとき、液晶モニターが暗く見える場合は、広角側で撮影してください。望遠側ではピントが合いにくいことがあります。
・赤目モードを利用すると、赤目を軽減して撮影できます。→P.74「赤目モードで撮影する」

■フラッシュの光量を調整する

フラッシュが発光するとき(ϟA・ϟ点灯・ϟ点滅)、フラッシュの光量を調整して撮影できます。

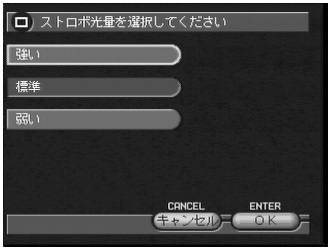
❶ **モードダイヤルを[]または[]に合わせ、MENUキーを押します。**

3 撮影する

❷ **[フラッシュ光量] を選びます。**



❸ **光量（強い・標準・弱い）を選んだ後、[OK] を選びます。**



❹ **[終了] を選んでメニュー画面を終了します。**

液晶モニターには、強いときは＋、弱いときは－が表示されます。標準のときは表示はありません。

❺ **シャッターボタンを押して撮影します。**



補足 ・フラッシュ光量の設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.116「カメラの設定内容を記憶する」

露出を補正する

通常、撮影範囲の中央に被写体があると自動で逆光補正を行うので、このまま撮影することができます。しかし、背景と被写体との間に極端な明暗差がある場合、被写体の露出がアンダー（暗い）やオーバー（白っぽい）になってしまいます。このようなときに露出補正をします。また、意図的に露出アンダーやオーバーな撮影をしたいときにも使用できます。

●露出補正の範囲

± 2.0EV（0.5EV ステップで設定）

●逆光撮影の場合

背景が非常に明るい場合など、被写体は露出アンダーになります。このようなときは＋側に数値を増やして補正します。

重要 ・逆光のとき、撮影範囲の中央に被写体がないときには、カメラは逆光状態と判断しません。露出補正をしてください。

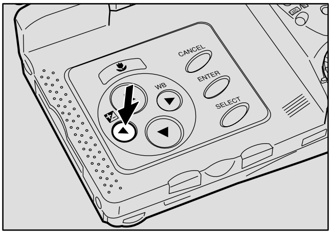
●白っぽい被写体を写す場合

全体に白っぽい被写体を写すときは、全体的に露出アンダーになり、人物などは暗く、白いものはグレーのように写ります。このようなときは＋側に数値を増やして補正します。

●黒っぽい被写体を写す場合

全体に黒っぽい被写体を写すときは、全体的に露出オーバーになり、人物などは白く、黒いものはグレーのように写ります。このようなときは－側に数値を増やして補正します。スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

❶ モードダイヤルを［ ・ ・ ・ ］のいずれかに合わせ、キーを押します。



❷ ペンでやをタッチして補正値を変更し、［OK］を選びます。

をタッチすると数値が進み、をタッチすると数値が戻ります。

●キーを使う

キーを押すと数値が進み、キーを押すと数値が戻ります。



❸ シャッターボタンを押して撮影します。



露出補正値を表示
DISPLAYキーを押したとき
（詳細情報表示→P.49）

補足
- 露出補正の設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.116「カメラの設定内容を記憶する」
- 設定した補正値を基準に-0.5EV、0、+0.5EVの補正値で、連続して3コマ撮影できます。設定した補正値の確認に便利です。→P.73「オートブラケット撮影のしかた」

ホワイトバランスを変更する

ホワイトバランスモードは、どんな光源の下でも自然の色合いで撮影できるようホワイトバランスを調整する機能です。通常はオートモードで撮影します。
オートモードのときは、どんな光源の下でも白いものを白く撮影するよう、白色系の部分を基準にホワイトバランスを自動的に調整しています。そのため、被写体に白色系の部分が少ない場合や暗い場合は、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときに、ホワイトバランスモードを変更して撮影してください。

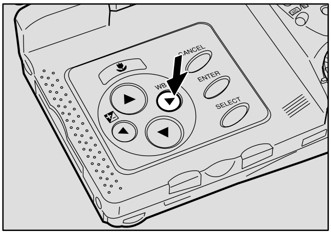
表示	モード名	内　容
AUTO	オート	カメラにまかせて自動で調整します。
	屋外	屋外の撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。
	曇天	曇天や日陰などの撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。
	白熱灯	白熱灯の下の撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。
	蛍光灯	蛍光灯の下の撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。

＊初期設定は、オートモードです。

オートホワイトバランスの苦手な被写体

・単一色な被写体
・複数の光源のある被写体

❶ モードダイヤルを［ ・ ・ ］のいずれかに合わせ、WB キーを押します。



❷ ホワイトバランス（AUTO ・ 、 、 、 ）を選んだ後、［OK］を選びます。



❸ **シャッターボタンを押して撮影します。**



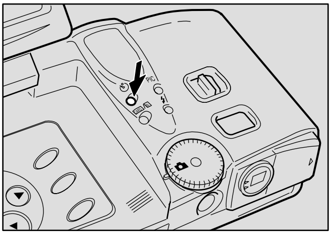
重要
・同じ被写体を撮影しても、天候や光源（白熱灯や蛍光灯）の種類により色の度合いが異なります。

補足
・オートモードの場合、被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
・（屋外）、（曇天）、（白熱灯）、（蛍光灯）のときは、フラッシュは発光しません。
・ホワイトバランスの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→ P.116「カメラの設定内容を記憶する」

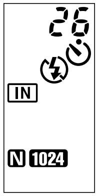
セルフタイマーを使って撮影する

撮影者自身も入った記念撮影などを行うときにセルフタイマーを使用すると便利です。カメラを三脚や水平な台の上に固定して撮影してください。

❶ **モードダイヤルを［ ］または［ ］に合わせ、キーを押します。**
セルフタイマーが設定されます。



液晶モニターや液晶パネルに⏲マークが表示されます。

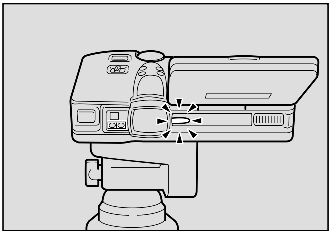


補足 ・再度⏲キーを押すと、セルフタイマーを中止できます。



❷ **構図を決め、カメラを固定したら、シャッターボタンを押します。**

セルフタイマーランプが点灯し、セルフタイマーがスタートします。約10秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる約2秒前からセルフタイマーランプが点滅に変わり、「ピピピピッ」というブザー音が鳴ります。
シャッターが切れると、モードが解除されます。



補足 ・フラッシュが充電中のときは、充電が完了してからセルフタイマー撮影を開始します。
・シャッターボタンを押した時点でピントは固定されます。

コラム

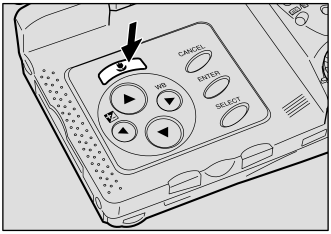
遠距離操作について

離れた位置や固定した位置にカメラを設置してお使いになるときは、リモートコントローラー（別売り）と組み合わせてお使いください。

至近距離で撮影する（マクロ撮影）

被写体に近づいてクローズアップで撮影することをマクロ撮影といいます。被写体までの距離が約24cmより近いときはマクロ撮影してください。

❶ モードダイヤルを［(camera)・(text)・(continuous)・(movie)］のいずれかに合わせ、(macro)キーを押します。



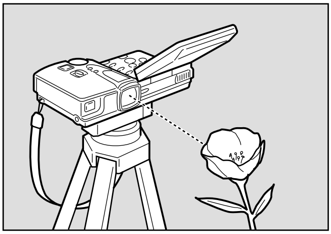
液晶モニターに(macro)マークが表示されます。



補足　・再度(macro)キーを押すと、マクロ撮影を中止できます。

❷ 被写体に近づいて構図を決め、シャッターボタンを軽く押してピントを合わせます。

❸ シャッターボタンを押して撮影します。



重要
- ・マクロ撮影ではピント合わせの範囲がせまいため、カメラが動くとピントが外れることがあります。カメラが動かないように、三脚などでしっかりとカメラを固定して撮影してください。
- ・ファインダーでの視野と撮影される範囲が大きくずれますので、液晶モニターまたはカメラをテレビに接続して、撮影範囲を確認しながら撮影してください。

コラム

シャッターボタンについて

三脚などでカメラを固定したためシャッターボタンが押しにくいときは、リモートコントローラー（別売り）を使用すると便利です。

補足　・マクロモードでは、フラッシュは発光しません。

マニュアルフォーカスで撮影する

被写体にピントが合わないとき、手動でピントを合わせながら撮影できます。

❶ モードダイヤルを［ ・ ・ ・ ］のいずれかに合わせ、MENUキーを押します。

❷［フォーカス］を選びます。



❸ フォーカスモード（MF）を選んだ後、［OK］を選びます。



❹［終了］を選んでメニュー画面を終了します。

液晶モニターにMFが表示されます。

補足 ・［AF］を選択すると、マニュアルフォーカスを解除できます。

❺ ▲・▼キーを押してピントを合わせ、シャッターボタンを押して撮影します。



補足 ・フォーカスの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。

→P.116「カメラの設定内容を記憶する」

日付を入れて撮影する

日付を入れて撮影するときに使用します。

補足 ・SETUPモードで日付を設定していない場合は、機能しません。日付を設定してください。また、日付の表示形式は、日付設定で選択した書式になります。→P.40「日付や時刻を設定する」

❶ モードダイヤルを［ ・ ・ ］のいずれかに合わせ、MENUキーを押します。

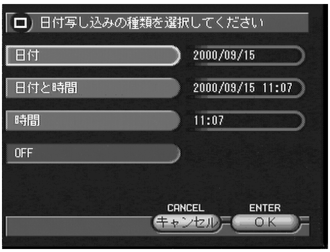
❷［日付入れ撮影］を選びます。



❸ 日付の種類（日付・日付と時間・時間）を選んだ後、［OK］を選びます。

2000年9月15日10時15分を例にすると、次のように表示されます。

・日付　　　・・・2000/09/15（年/月/日）
・日付と時間・・・2000/09/15 10：15
（年/月/日 時：分）
・時間　　　・・・10：15（時：分）



補足 ・［OFF］を選択すると、日付入れ撮影を解除できます。

❹［終了］を選んでメニュー画面を終了します。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。

補足 ・日付入れ撮影の設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.116「カメラの設定内容を記憶する」

撮影感度を変更する

撮影感度を切り替えて撮影できます。

❶ **モードダイヤルを［ ・ ・ ］のいずれかに合わせ、MENU キーを押します。**

❷ **［ISO 感度設定］を選びます。**



❸ **撮影感度（AUTO・ISO200・ISO400）を選んだ後、［OK］を選びます。**



❹ **［終了］を選んでメニュー画面を終了します。**

液晶モニターに撮影感度が表示されます。

❺ **シャッターボタンを押して撮影します。**



撮影感度表示
DISPLAYキーを押したとき
（詳細情報表示→P.49）

補足 ・撮影感度の設定を保持するときは、モード保持を設定してください。
→ P.116「カメラの設定内容を記憶する」

オートブラケット撮影のしかた

「露出を補正する（P.64）」で設定した補正値を基準に、-0.5EV、0、+0.5EV の補正値で 3 コマ連続して撮影します。露出補正の確認に便利です。
手ブレしないようカメラを三脚や水平な台の上に固定して撮影してください。

❶ **モードダイヤルを［ ］に合わせ、MENU キーを押します。**

❷ **［オートブラケット］を選びます。**



❸ **［O N］を選んだ後、［OK］を選びます。**

❹ **[終了] を選んでメニュー画面を終了します。**

液晶モニターに AB が表示されます。



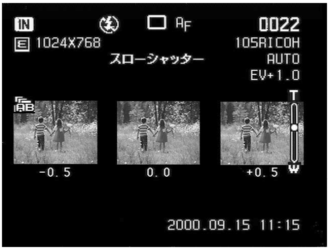
❺ **シャッターボタンを押して撮影します。**



オートブラケット表示

DISPLAYキーを押したとき（詳細情報表示→P.49）

シャッターボタンを押すと、設定された露出補正値を基準に、-0.5EV、0、+0.5EV で 3 コマ連続撮影されます。



補足 ・画質モードが非圧縮モード（NC）のとき、または［音声付き撮影］が［ON］の場合、オートブラケット撮影は利用できません。
・オートブラケット撮影では、フラッシュは発光しません。

赤目モードで撮影する

暗いところでフラッシュが発光したとき、目が赤く写ることがあります。この現象を「赤目」といいます。赤目を軽減したいときに、このモードを使用します。シャッターが切れる前にフラッシュが数回発光し、これにより赤目が軽減されます。

❶ モードダイヤルを［ 📷 ］に合わせ、MENU キーを押します。

❷［赤目モード］を選びます。



❸［ON］を選んだ後、［OK］を選びます。

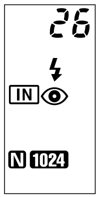
❹［終了］を選んでメニュー画面を終了します。

液晶パネルや液晶モニターに👁マークが表示されます。



❺ シャッターボタンを押して撮影します。

シャッターボタンを押すと、フラッシュが数回連続して予備発光したあと、本発光してシャッターが切れます。



重要 ・シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまで、約1秒かかります。カメラをしっかりと構えて撮影してください。



補足 ・フラッシュモードが⊘（発光禁止）のときは利用できません。

非圧縮モードで撮影する

通常の画質モードは、記録の際にデータを圧縮しています。データを圧縮しないで記録するときは、非圧縮（NC）をONにして撮影します。

❶ モードダイヤルを［ ］に合わせ、MENUキーを押します。

❷［非圧縮］を選びます。



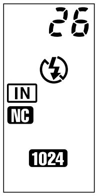
❸［ON］を選んだ後、［OK］を選びます。



❹［終了］を選んでメニュー画面を終了します。

液晶パネルや液晶モニターにNCが表示されます。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。



非圧縮モード表示
DISPLAYキーを押したとき
（詳細情報表示→P.49）



●データの目安

サイズ（画素数）	NC
2048　2048×1536	約　6MB/画面
1024　1024×768	約 1.5MB/画面
640　640×480	約640KB/画面

モノトーンモードで撮影する

モノクロまたはセピアで撮影します。

❶ モードダイヤルを［ ・ ・ ］のいずれかに合わせ、MENU キーを押します。

❷［モノトーンモード］を選びます。



❸ モノトーンモード（B&W・SEPIA）を選んだ後、［OK］を選びます。

モノクロで撮影するときは［B&W］、セピアで撮影するときは［SEPIA］を選びます。



補足 ・［OFF］を選択すると、モノトーンモード撮影を解除できます。

❹［終了］を選んでメニュー画面を終了します。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。



モノトーンモード表示
DISPLAYキーを押したとき
（詳細情報表示→P.49）

補足 ・モノトーンモードを選択すると、ホワイトバランスモードは機能しません。

インターバル撮影のしかた

設定した時間間隔で自動的に撮影します。時間間隔は30秒〜3時間00分00秒の範囲で、30秒間隔で設定します。
例えば、時間間隔を1時間に設定すると、1時間ごとにシャッターが切れ、記録先のメディアの容量がなくなるまで連続して撮影します。

重要
・インターバル撮影を行う際、メディアの撮影可能枚数を確認してから設定してください。

❶ モードダイヤルを［ ］または［ ］に合わせ、MENUキーを押します。

❷［インターバル］を選びます。



❸ 時間間隔を設定し、［OK］を選びます。
インターバルタイマーが設定されます。



参照 ・P.34「(スピンボックス)の使い方」

❹［終了］を選んでメニュー画面を終了します。

補足 ・「インターバル」の文字が点灯しているときは、モードダイヤルを回すか電源をオフにすると、インターバル撮影を中止できます。

❺ シャッターボタンを押します。
最初の1枚が撮影され、これ以降、設定した時間間隔で撮影されます。撮影中は、「インターバル」の文字が点滅し、メディアの容量がなくなると撮影を終了します。



補足 ・撮影中は、CANCELキーを押すとインターバル撮影を中止できます。

補足 ・インターバル撮影中でも、シャッターボタンを押すと通常の撮影ができます。設定した時間間隔はずれません。
・画質モードやフラッシュモードの設定によっては、設定した時間より撮影間隔が長くなる場合があります。
・バッテリーを使用した撮影では、インターバル撮影の途中でバッテリー切れになってしまうことがあります。ACアダプター（別売り）を使用して撮影してください。

ソフトモードで撮影する

人物の顔や空、壁などの平面的な撮影で、輪郭をなめらかにして撮影します。

❶ モードダイヤルを［ ・ ］のいずれかに合わせ、MENUキーを押します。

❷［ソフトモード］を選びます。



❸［ON］を選んだ後、［OK］を選びます。

❹［終了］を選んでメニュー画面を終了します。



❺ シャッターボタンを押して撮影します。



ソフトモード表示
DISPLAYキーを押したとき
（詳細情報表示→P.49）

補足 ・ソフトモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.116「カメラの設定内容を記憶する」

長時間露光モードで撮影する

暗い所で、花火や走っている車などの明るい被写体を撮影するとき、長時間露光モードを設定して撮影します。

重要 ・長時間露光モードでは、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENUキーを押します。

❷［長時間露光］を選びます。



❸ 露光時間（OFF・1秒・2秒・4秒・8秒）を選んだ後、［OK］を選びます。



❹［終了］を選んでメニュー画面を終了します。

液晶モニターに長時間露光モードが表示されます。

❺ シャッターボタンを押して撮影します。

長時間露光モード表示



補足 ・長時間露光モードは、オートブラケット撮影では設定できません。

画像スタンプを入れて撮影する

撮影者名や、パソコンで作成し、カメラに転送した画像ファイルを入れて撮影できます。

❶ モードダイヤルを［ 📷 ］に合わせ、MENU キーを押します。

❷［画像スタンプ］を選びます。



❸ 撮影画像に追加する画像スタンプ（オーナー名・ユーザーイメージ）を選びます。

オーナー名は、「オーナー情報を登録する(P.43)」で登録した内容を追加します。
ユーザーイメージは、パソコンで作成し、カメラに転送した画像ファイルを追加します。



❹ スタンプ位置を選んだ後、［OK］を選びます。

画像スタンプが設定されます。

参照 ・P.33「(ラジオボタン) の使い方」

補足 ・［なし］を選択すると、画像スタンプ撮影を解除できます。

❺［終了］を選んでメニュー画面を終了します。

❻ シャッターボタンを押して撮影します。



画像スタンプを表示
DISPLAYキーを押したとき（詳細情報表示→P.49）

〈補足〉 ・日付入れ撮影の場合、日付情報と画像スタンプの大きさやスタンプ位置によって重なって表示されることがあります。
・画像スタンプを入れて撮影すると、画質が多少粗くなります。
・ユーザーイメージとして利用できるのは、BMP形式とGIF形式のファイルです。画像スタンプ転送機能で、パソコンからカメラに取り込んで利用します。→パソコンとの連携編「スタンプファイルを転送する」

文字モード撮影時の濃淡を変更する

文字モードの撮影では、文字をより読みやすいように、5段階の濃淡設定が行えます。

❶ モードダイヤルを[ ]に合わせ、MENUキーを押します。

❷ [スキャナー濃淡設定] を選びます。

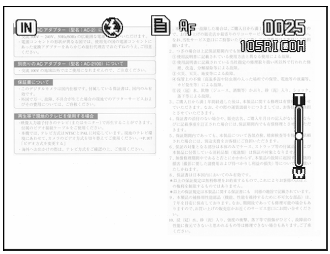


❸ 濃淡(濃い・やや濃い・ふつう・やや淡い・淡い)を選んだ後、[OK] を選びます。
濃淡が設定されます。

❹ [終了] を選んでメニュー画面を終了します。



❺ シャッターボタンを押して撮影します。



3
撮影する